

福岡県内の地域おこし協力隊が、さまざまなモノコトを発信

つながりタイ新聞

VOL.

27

2025.03



わたしたちの、
卒業の証。

筑豊地区
地域おこし協力隊新聞部
合同卒業制作

Chikuho Area
Community-Reactivating Cooperator Squad Newspaper Division
Joint Graduation Work



つながりタイ新聞

松木、部活やめるってよ 地域おこし協力隊コラム



今回は初めて、新聞部メンバーが活動地域のエリアに分かれて制作することになりました（全員で集まる時間がなかったというのはナイショの話！笑）。前半となる今月号は、田川市と糸田町からなる筑豊チームプレゼンツ。池田さんが今年の3月末、私が7月末で協力隊の任期満了ということで、二人の卒業制作も兼ねて取り組ませていただきました。

地理的な距離が近いからこそさっとリアルで集まることができ、話し合いから生まれるクリエイティビティやスピード感など、大変さもありましたがいつもとはまた違う楽しさも感じることができました。今後新聞部の人数がもっともっと増えたら、エリアごとの支部が生まれる未来もありえるかもな～なんて妄想も膨らみました。（新メンバーいつでも募集しています！！）

そして、次号は筑後地域の二人がメインとなって企画を練るということで、少し早いですが今号にて私も新聞部を卒業させていただきます。協力隊になって右も左も分からない頃に入部し、新聞部の活動を通して出会えたつながりに様々な場面で励まされてきました。約2年間、大変お世話になりました！引き続き、福岡県地域おこし協力隊新聞部と「つながりタイ新聞」をよろしくお願いいたします。

発行元

福岡県地域おこし協力隊新聞部

市町村の枠を越えて集まった、福岡県内の地域おこし協力隊。
自分の地域のおもしろいコト、お隣の地域のおもしろいヒト、
遠く離れた地域のおもしろいモノ・・・。
地域にとらわれず、さまざまなモノコトを発信します。

Instagram



つながりタイ新聞

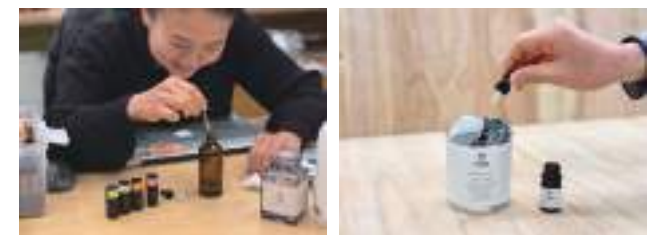
つながりタイ新聞は、現在、当ペーパーの発行と、Instagramをメインに活動しています。自分たちの活動のみならず、福岡県で活動しているさまざまな市町村の地域おこし協力隊の情報を発信しています！



ふくおか協力隊図鑑

「ふくおか協力隊図鑑」とは、福岡県内の現役地域おこし協力隊・OB/OGの活動内容や自己紹介をまとめた、ポートフォリオのようなInstagramアカウントです。福岡県地域おこし協力隊新聞部で運営を行っています。

試作中の様子@デジタルラボとしよも



新聞部部員

今回の記事担当／
筑豊チーム



糸田町
松木響子



田川市
池田駿介

筑後チーム



八女市
古庄真苗



うきは市
三角俊喜

編集：池田駿介 / ライティング：松木響子

市町村の枠を越えたコラボって？

糸田町

面積：8 km²
人口：8,000人



松木響子

【ミッション】
特産品開発
コミュニティづくり
【着任時期】
2022.7.1
【出身地】
千葉県千葉市
【前職】
公共向けシステムの
インサイドセールス
【今回の担当業務】
企画開発

田川市

面積：55 km²
人口：45,000人



池田駿介

【ミッション】
デジタルラボの運営
デジタル人材の育成
【着任時期】
2023.1.31
【出身地】
秋田県秋田市
【前職】
プロダクトデザイナー
shunsuke-ikeda.com
【今回の担当業務】
アートディレクション
デザイン

田川市立図書館内の「デジタルラボとしょも」にて、ものづくりやデザインの楽しさを伝え、デジタル人材の育成に取り組んでいる。利用者は子どもから年配の人まで幅広く、レーザーカッターや3Dプリンターなどを使って、オリジナル作品などを一緒に制作している。



デジタルラボとしょも
OFFICIAL WEBSITE

味噌やジャムを手作りする地域団体のサポートや、PRイベントへの出店、町内施設を活用したワークショップなどを行う。2024年4月に「糸田町庭先かんきつプロジェクト」を立ち上げ、地域のひとと協働しながら、町内の未利用柑橘を使ったアロマオイル開発に取り組んでいる。



糸田町庭先かんきつ
プロジェクト



最初に制作した木製プレート

松木…今回はありがとうございました。共同制作とても楽しかったです。池田…いい作品ができましたね！松木…はい！そういえば、私たちで最初どこで会ったんですって？池田…うーん、いいかねパレットで開かれたイベントじゃないですか？そこで共通の知り合いが繋げてくれた。だから1年半前くらいかな。松木…そうでしたね！たしか研修とかじゃなかったなあと。仕事外でも意外と協力隊と出会うチャンスってありますね。池田…興味の赴くまま地域をふらつとるのがポイントかもですね（笑）その後、松木さんが活動で使うプレートを作るために「としょも」に連れて、庭先かんきつプロジェクトの構想を聞かせてもらいました。松木…そうそう、イベントでは名刺交換をしただけだったので。あの時は本当に「としょも」のレーザーカッターを使いたくて、ついになんかとお話できたらいけないくらい

の感じでした。池田…それで言うところ「場所を持っている」という状況はありがたいです。理由がいくつかあった方が会いに来てもらいやすいなって。松木…本当にそうですね。お話しするうちに、池田さんが前職で化粧品にも関わっていたことを知って、このチャレンスは逃せないと思ったんです。商品開発とか専門的なことは、なかなか行政の方や地域の人たちには相談できなかったから。それからちよこちゃん通うように意識しました（笑）池田…そうだったんですか！ロックオンされていたんですね（笑）でもその繋がりが、こうして新聞部としても活動できたのでよかったです。今回の企画、これで終わりにするのはもったいない気もするので、販売とまではいかずとも、どこかで展示とかしたいですね！松木…いいですね。その時は、つながりタイ新聞のコラムで案内させてもらいましょう。今から楽しみです！



デジタルラボとしょもの室内

筑豊で採れた恵を、新たなカタチに。

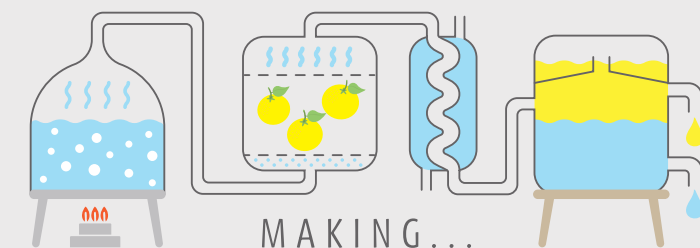
筑豊といえば、やはり石炭。日本最大の産炭地としてエネルギー面から近代化を支えました。そして現在は、セメントやコンクリートの原料となる石灰を大地から頂いています。どちらも「ダイヤモンド」と称されてきた大切な資源。その黒と白のコントラストにインスパイアされました。



アロマオイルの原料は、民家の庭先になりっぱなしの「持て余された柑橘」。代々家が栄えますようにと、橙の木を植える家庭が多かったのだとか。しかし、柑橘のある光景は特段珍しいものではない。実は「もったいないきやるばい」と快く譲ってくれるきっぷの良さが、筑豊の一番の宝なのです。



そうして集まった様々な柑橘から抽出する、香りの雫。大量の果皮からとれるのはごくわずか。そこには、関わった人の想いと地域のストーリーが凝縮されています。何かと“熱い”筑豊。汗を流した後やりフレッシュしたい時に使ってもらうことをイメージして、特別にブレンドしました。



MAKING...

「かつて炭鉱で栄えた地域」と、語られることも多いからこそ、昔からある地域資源に、ソトから来た私たちのエッセンスを加えてものづくりをしました。この製品や体験を通して、筑豊の新たな一面と“今”の魅力を感じてもらえたら嬉しいです。

柑橘から抽出したピュアオイルと、
石炭・石灰のアロマティックストーン

